

豊かな緑で山梨の未来を創る！

2026
vol. 39

ぞうえん山梨

— Landscape Yamanashi —



Special contribution

特別寄稿

緑地と文化 ～ 時を超える「社会の富」

農学博士 東京大学名誉教授 石川 幹子氏



(一社)山梨県造園建設業協会 山梨県造園建設業協同組合

CONTENTS

- 会長・理事長あいさつ P03
- 定時社員総会 P03
- 特別寄稿 緑地と文化 ～ 時を超える「社会の富」 P04
農学博士 東京大学名誉教授 石川 幹子氏
- 技術委員会の活動 P08
- 事業委員会の活動 P09
- 協会の動き P10
- 日造協山梨県支部の活動 P10
- 令和7年度北関東視察研修会 P11
- 全国都市緑化ぎふフェア視察記 P12
- 表彰 P13
- 組合の事業 P14
- 青年部の活動 P15

表紙の解説

主要地方道甲府市川三郷線（昭和通り）
トウカエデの並木道



一般社団法人 山梨県造園建設業協会
山梨県造園建設業協同組合
会長・理事長 依田 忠

平素より（一社）山梨県造園建設業協会及び山梨県造園建設業協同組合の活動に格段なご支援ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

協会活動においては、造園建設業の急速な高齢化や若者離れが進む中、造園建設業界の健全な発展と若手技術者の造園技術力を強化するための取組みや造園業の魅力を発信する活動を進めており、夢と誇りをもって活躍できる希望に満ちた産業になりますように、各委員会で事業展開を進めて参りました。

一方、組合活動では、県立武田の杜保健休養林の管理運営において、自然と共生し心身の健康の維持・増進を図る事業や野生鳥獣の生態への理解を深める事業を実施しました。緑の普及啓発事業は、身近な場所で緑化に関する学習機会を提供し、楽しみながら緑の重要性と緑化の意義を学んでいただきました。

今後も造園建設業が地域に根差した産業として立ち位置を明確にし、災害時には、山梨県との防災協定に基づき地域の守り手として円滑な復旧活動に協力し、更なる造園力（ゆるぎない技術力、洗練された文化力、豊かな想像力）の向上を図り、人と自然が共生する緑豊かで持続可能な社会の形成に貢献していく所存であります。また、今年は「協会創立50周年」を迎えます。私たちが取り組む課題は多岐に渡り難問が山積しておりますが、諸先輩方と共に社会に提供してきた「みどりの価値」を幅広く県民に理解していただき、さらに活気あふれる業界へ成長するために協会・組合一丸となって努力して参ります。

令和7年5月26日、造園建設業会館において、第13回定時社員総会が開催されました。来賓として出席した堀内詔子衆議院議員、永井 学参議院議員、山梨県議会土木森林環境委員会 大久保俊雄委員長よりご祝辞を頂いた後議事に移り、令和6年度決算について承認され、続いて令和6年度事業報告、令和7年度事業計画及び収支予算について了承されました。なお造園事業功労者表彰では、(株)富士グリーンテック・齊藤 大樹氏、(株)雲松園・角田 哲也氏、(株)富士グリーンテック・山本 隆太氏の3氏が表彰されました。



農学博士
東京大学名誉教授
いしかわ みきこ
石川 幹子

はじめに

2022年に「ぞうえん山梨」に、「グリーンインフラ 大地に根をはる美しい山梨に向けて」を寄稿させていただきました。その後、「グリーンインフラ」という考え方は、大きく普及していき、公園や緑地を創り出し、継承していく仕事、人びとの暮らしを支える基盤であるという社会的認識が、急速に広がっています。

この背景には、地球温暖化による異常気象の増大、生物多様性の危機、大地震発生時の避難所の確保、コロナ禍を踏まえた安全・安心な環境の確保等、様ざまの課題が山積しているからに他なりません。

本稿では、あらためて、「グリーンインフラとは何なのか」について、歴史をひもときながら述べ、「社会の富」を創り出していく造園の仕事について、「文化」の視点から考察したいと思います。

1. 世界最古のグリーンインフラ：「林盤」

現存する世界のグリーンインフラで、最も古いものの一つが、中国四川省都江堰市の「林盤」です。(写真1・2) 都江堰市には、紀元前230年、李冰父子により創り出された古代水利工があり、チベット高原に発し、四川盆地へと没する暴れ川であった岷川の水が、この水利工により、広大な成都平原を潤しています。これは、甲府盆地の歴史とも重なるものです。

諸葛孔明は、この地を「沃野千里、天府の地」と讃えました。「林盤」とは、広大な水田地帯に、緑の島のように形づくられてきた「農村コミュニティ」の原単位です。面積は、約1ha、人口は50～100人、周囲にはメタセコイヤ、シナサワグルミ、クスノキ等の高木が植えられ、内部は、野菜、植木、果樹等の作物が植えられており、農業・林業・園芸・畜産の複合的な経営が行われてきました。網の目の様に張り巡らされた灌漑水路網(支渠・斗渠・農渠・網渠)が、2000年の長きに渡って、このシステムを支えてきました。グリーンインフラの要件の一つは「持続可能性」であり、「林盤」は、以下の特質を有しています。

第一に、インフラ整備の目的が明確(洪水の防止と豊かな農村の構築)。

第二に、戦略的計画と技術の存在(広大な成都平原を見据えた計画と古代水利工の技術)。

第三に、広域から身近な空間までのネットワーク構造。

第四に、「林盤」が、コミュニティの誇りとする文化的景観として継承されてきたこと。



▲写真1 中国四川省都江堰：古代水利工(BC230年)



▲写真2 「林盤」成都平原に無数に分布する農村コミュニティの原型
世界遺産都市：写真提供 都江堰市

2. 都市の肺

ヨーロッパでは、近代化の道を歩みだす19世紀初頭～中葉にかけて、グリーンインフラとして「都市の肺」が誕生しました。その発端は、1666年のロンドン大火後に、クリストファー・レンによる復興計画で、稠密な市街地にオープンスペースが設けられたことでした。都市の不燃化を行うと共に、コレラ、ペスト、結核等から人々を守り、空気を浄化する「都市の肺」としてオープンスペースの役割が必要とされたのです。この手法は、1755年に発生したリスボン大地震で、復興計画に取り入れられました。中世の迷路のような都市から脱却し、オープンスペースや公園を計画的に整備する都市づくりの考え方は、各都市に波及し、パリのブローニュの森、ヴァンセンヌの森、ベルリンのティアガルテン、ダブリンのフェニックスパーク(図1・写真3)等、大規模な公園が次々に誕生していきました。グリーンインフラは、危機に瀕して、新しい社会の「イノベーション(改革)」を、生み出したものであったといえます。



▲図1 フェニックスパーク(ダブリン)1853年



▲写真3
ダブリン フェニックス・パーク

3. 民主主義の庭

今日の世界の公園整備に一時期を画したものが、ニューヨーク市におけるセントラルパーク（写真4）の整備です。これは、1851年、市長キングスランドが、市議会に「すべての人々が楽しむことのできる公園を設置すべきである」という提案を行ったことに始まります。当時、移民の流入が相次ぎ、感染症の蔓延を防ぎ、公衆衛生の考え方を確立することが、求められていました。市長の提案を踏まえて、ニューヨーク州議会は、同年七月、公園用地の取得に関する最初の公園法を可決し、候補地の選定が行われました。候補地として選定されたのが、現在の場所で、当時は街はずれで貯水池が設けられていた場所でした。公園用地の買収価格の公正化を図るため、1853年、ニューヨーク州最高裁判所は、土地評価委員会を設置し、この結果、1856年、用地買収費として総額506万9693ドルが約7500名にのぼる土地所有者に支払われました。具体的な設計案は、公開競技設計が行われ、第一位となった案が、「緑の芝原」という、都市の真ん中に誰でも自由に利用することのできる「民主主義の庭」を創り出すことを目標としたものでした。設計者は、フレドリック・ロー・オルムステッドとカルヴァート・ヴォーで、立体交差の導入など、一時期を画するものでした。セントラルパークは、グリーンインフラとして、どのような特質を有していたのでしょうか？



▲写真4 セントラルパーク

第一に、理念が明確であり、「民主主義の庭」を創り出すという考え方は、当時のアメリカの理想を端的に示したものでした。

第二に、岩盤で排水不良の地への暗渠排水の導入、立体交差の交通システム、これに伴う景観に配慮した橋梁の設計など、農業・交通工学・橋梁デザイン等、多様な技術が新しいインフラを創り出すために活用されたこと。

第三に、格子状の街路システムのなかに、創り出された「田園のユートピア」は、古来、人びとが追い求めてきた「理想郷」の実現と符合するものであったこと。セントラルパークは、その後、様ざまの開発の危機（図2）に瀕してきましたが（公共住宅の建設、鉄道の敷設、スタジアムの建設等）、これに打ち勝ち、「田園のユートピア」を継承してきたのは、市民の力です。



▲図2 セントラルパークに提案されてきた様ざまの開発構想。市民運動により実現せず。市民運動により実現は阻止されてきた。



▲図3 エメラルド・ネックレス計画図(1894年ボストン)

4. エメラルド・ネックレス（緑の首飾り）

ニューヨークでは、市街地の真ん中に330haにもものぼるセントラルパークを創り出しましたが、まとまった大規模な公園を確保することが困難なまちで、河川や湿地などを活用し、ネットワーク型のグリーンインフラを生み出したのが、アメリカの古都ボストンです。

アメリカ合衆国マサチューセッツ州のボストンは、独立戦争発祥の地ですが、地形は氷河により形成された小高い丘（氷堆丘・モレーン）と湖や湿地が点在する地域であり。最初の市街地は、この氷堆丘（ビーコンヒル）の周辺に築かれ、ふもとにボストン・コモンが設けられました。

19世紀中葉、綿紡績業の進展と移民の流入により、市街地の拡大が必要となり、ビーコンヒルの後背地に広がっていた湿地帯（バックベイ）の埋め立て事業が開始されました。これはアメリカで、最初の第三セクターによる市街地整備事業であり、中央にコモンと連続する幅員60mのコモンウェルス・アヴァニューを導入したことが、一時期を画するものとなりました。堂々たる並木は、不毛の湿地であった土地を良好な市街地へと変身させ、事業者であった州と市は、多額の開発利益を取得し、病院・図書館・学校等の公共施設整備に充当することができました。（図3）

このように良好な公園緑地を整備することにより、不動産価値を高めていくことが実証されたため、当時の郊外であったブルックリン地区を流れる氾濫を繰り返していたマディー川（マディー川）の改修が行われ、様々な公園緑地が生み出されていったのです。（写真5・6）マディー川ぞいには、ボストン美術館があり、連続して、ハーヴァード大学の樹木園であるアーノルド・アーボリータムがありました。川に沿って連続し、散歩できるパークウェイが創り出され、最下流の湿地帯は、今日に連なる野球の殿堂、フェンウェイ・パークとなりました。



▲ 写真5 緩傾斜護岸を導入し、河川改修が行われた(1880年代)



▲ 写真6 ポストン美術館背後に創り出された湿地帯(2010年)

「フェン」という名前は、「湿地」という意味です。ボストン市民は、この緑の連鎖を「エメラルド・ネックレス」と呼び、市の誇りとなる空間として継承しています。

近年では、衰退していた中心市街地のウォーターフロント・エリアの再開発が行われ、高速道路が地下化され、新しい「エメラルド・ネックレス」が誕生しています。時を超えて、市民が繋いでいくことが、グリーンインフラの要件であると考えます。

5. 天空の理想郷

地球温暖化に伴う氷河湖の決壊などにより、中腹の山麓で洪水被害などが多発しているのが、ヒマラヤ山脈のブータン王国です。加えてモータリゼーションの進展に伴い、狭い峡谷に市街地開発事業が進み、流域圏計画に基づくグリーンインフラの整備が大きな課題となっていました。首都ティンブーでは、この問題を解決するために、大きく蛇行しているティンブー川の氾濫原を保全し、河畔林の植樹をおこない、王宮(タシチョゾン)の背後の棚田と山林を保全し、下流地域の市街地の安全性の確保を目的としたグリーンインフラが作りだされました。計画にあたっては、政府代表団が東京を訪れ、皇居の杜が文化を守っていることに感銘を受けられ、国王陛下の迅速な判断でロイヤルパークが実現しました。写真7は王宮を中心とするブータン王国のロイヤルパークの規模で、写真8は東京の皇居です。一国の文化を象徴する公園緑地がグリーンインフラであることがわかります(写真9,10)。



▲ 写真7 ブータン王国ロイヤルパーク



▲ 写真8 東京 皇居



▲ 写真9 ブータン王国ロイヤルパーク王宮(タシチョゾン)、ティンブー川の氾濫原、棚田を活かし、保全・整備された。



▲ 写真10 自然を敬う文化(民族舞踊)

6. 日本におけるグリーンインフラの整備と舞鶴城公園(甲府市)

日本における「公園」は、1873年(明治6年)1月15日に発せられた「太政官布達」により誕生しました。これは、全国各地の古くからの名所旧跡や、群集遊観の場所を「公園」としたもので、しかも、どこを「公園」とするかは、それぞれの都市の決定に委ねたのでした。1907年(明治四十年)頃までに全国で約九十カ所にのぼる公園が開園しています。

甲府市の舞鶴城は、武田氏の領するところでしたが、文禄年間、浅野長政により築城されました。廃藩置県後、国有地となり、明治9年には勸業試験場、同10年には葡萄酒醸造所が建設されました。明治30年には、中央線敷設に伴い、屋形曲輪、清水曲輪の解体が行われ、甲府停車場(現在の甲府駅)が建設されました。

明治37年4月、住民からの強い要望により、山梨県は、本丸・二の丸跡約11.7haを県立公園として開放し、舞鶴城公園が誕生しました。そして、大正6年、地元の篤志家村松甚蔵氏が本丸跡を国から買収し、これを改めて県に寄附したのです。

国有地であった舞鶴城公園を、個人が買収し、寄付をして再度、国有財産とする必要は、本来であれば全く必要のないものでした。この背景には、明治37年には甲府中学が設置される等、公園の区域はますます狭められており、村松甚蔵氏は、これを憂い、一旦私有地化し、あらためて指定寄附をしたものと言われています。



▲ 写真11 舞鶴城天守台から、北東方向を臨む

写真11は、天守台から甲府市街地と遥かに連なる、笹子峠方面、大菩薩峠方面をのぞんだものです。眼下には、イロハモミジの古木が深い影をおとし、稲荷曲輪の広々とした広場は市民の憩いの場となっています。山梨県の歴史を刻む城跡が、このように継承され、昭和43年には県指定文化財、平成31年には国指定史跡となりましたが、時代の荒波の中で、一民間人や市民が声をあげ、護り抜いてきたことは、深く歴史に刻まれるべきことと考えます。

天守台からの眺望は、極めて重要であり、周辺の景観を如何に保全していくかが課題です。また、甲府駅の広場は緑化が必要で、舞鶴城への動線は、同じ甲府城であったことが、何がしかのインフォメーションや、プロムナードの整備により、わかるとよいのではないかと考えます。

7. 山梨県の誇るグリーンインフラ：万力公園（山梨市）

山梨県の誇るグリーンインフラの一つが万力公園です。この公園は、笛吹川の洪水を緩和するためにつくりだされた水防林に起源を有します。

笛吹川は、甲武信ヶ岳・国師ヶ岳に源を発し、途中、20数支流を合せ、釜無川と合流、富士川になるまで約80kmに及ぶ山梨県最大の水系ですが、これらの支流が運ぶ土砂により、大洪水が、しばしば発生しました。武田信玄の頃、水防林として赤松が植えられ同時期に雁行堤防（霞堤）が築られました。天正11年（1583年）の大洪水では、沿岸21箇村の田畑をことごとく押し流したと言われていています。慶長5年（1600年）徳川氏は、堤防を増築し、田畑に木を受けて水防林とし、樹木の伐採を厳しく禁じました。明治34年（1901年）に「水害防備林」に編入されました。現在は、山梨市の管理する総合公園となっています。

写真12は、笛吹川にかかる根津橋から、万力公園の霞堤を臨んだものです。霞堤の背後に水防林として創り出されたアカマツ林、その後、形成されたクヌギ、コナラ、イロハモミジ等の混交林が広がっています。一旦、洪水が起きた時には、水流が密生している樹木の中を流れることにより、洪水の勢いを軽減し、流木や土砂の流出を軽減することが目的とされました。写真13は、現在の水防林の風景で、万葉集にちなむ、馬酔木、卯の花、百合、萩等が植栽され、子どもたちが明るい森のなかで、のびのびと遊ぶことのできる憩いの場となっています。

「万力」の名は、万人の力を合わせて堅固な堤防をつくったことによると、されていますが、時代から時代へ、地元の人びとにより手渡されてきた、この公園は、まさに、グリーンインフラの手本ともいえるものと思います。

結び

以上、世界各国のグリーンインフラについて、歴史的視点から、その特質について考察してきました。古代水利工により生み出された中国四川省の「林盤」、ペスト・コレラに打ち勝つために「社会的イノベーション」として誕生した「都市の肺」、社会の理想を空間化したニューヨークの「民主主義の庭」、市民が丁寧に紡ぎ出したボストンの「エメラルド・ネックレス」、天空のロイヤルパーク、そして、舞鶴城公園。

万人が力をあわせて創り出してきた「万力公園」は、その懐の深さ、風雪に耐え抜いてきた力強いフォルム、木漏れ日の中に舞い散る木の葉の一葉、一葉に、命の煌きがあり、グリーンインフラの名作であると考えます。

あらためて、「グリーンインフラとは、自然環境を生かし、地域固有の歴史、文化、生物多様性を踏まえ、地球環境の持続的維持と安全・安心な暮らし、人々の命の尊厳を守るために、戦略的計画に基づき構築される「社会の富」である」と定義することができます。



▲ 写真12 笛吹川にかかる根津橋から霞堤を臨む。中央の駐車場は、移転すべき。(2025年12月1日)



▲ 写真13 万力公園内のアカマツ、クヌギ、イロハモミジの混交林(2025年12月1日)

会館前庭製作 — 南北で異なる趣を持たせ、協会の技と理念を表現 —

令和7年5月、山梨県造園建設業協会館入り口にて南北2カ所の前庭の緑地整備を実施しました。

南側では、竹垣を中心に枯山水の砂利敷きを取り入れました。竹垣は縁起が良いとされる「臥龍垣」を製作しました。龍が臥した姿を表す曲線を特徴とし、その形状をつくるために竹を細かく割って曲げる高度な技術を施しています。北側では、協会が提案している街路樹植栽柵の植栽レイアウトを参考に、手入れがしやすく、季節の変化を楽しめる植栽を行ないました。地表には火山砂利であるスコリアを敷き、マルチング効果により、景観の美しさと維持管理のしやすさを両立させています。双方とも強い日差しにも耐え、四季折々の表情を楽しめるように植栽にはヒメシャリンバイ・カンツバキ・斑入りトベラ・ドウダンツツジ・セイヨウイワナンテン・マフォニアコンフューサ・アベリア・アセビを、下草としてツワブキ・ハツユキカズラ・ロニセラ・トクサ・斑入りヤブランを使用し来訪者をやさしく迎える空間を演出しています。

さらに、南北双方に六方石を各3本ずつ配置し、空間全体に一体感を持たせました。この6本の石には、今年で設立50年を迎える山梨県造園建設業協会が、次の60年へ向けて新たな歩みを進める、その決意を込めています。



▲ 南側 竹垣と和の植栽



▲ 北側 四季折々を楽しめる植栽

甲府工業高校建築科にて、実習を交えた3年目の取り組み

令和7年10月23日、造園建設業の魅力や理解を深めることを目的とした出前講座を、甲府工業高校建築科にて開催しました。同校より“複数年にわたる継続的な講座実施”への期待が寄せられており、今年度も将来の進路選択を控えた2年生を対象に実施しました。

講座の前半は座学とし、日本造園建設業協会制作の紹介ビデオを視聴し、造園建設業が「みどりの創造と維持管理」を通じて地域の暮らしを支えている役割を紹介しました。あわせて、3年生になると卒業制作で外構を含めた住宅設計が必修となることを踏まえ、ゾーニングの考え方や植栽する樹木の選び方、園路の配置、庭を彩る添景物など、庭づくりに必要な造園的視点や技術的ポイントを専門家の視点で説明しました。さらに、仕事の現場で求められる道具の扱い方や基本マナー、職人としての心構えなど、実務に直結する内容についても紹介し、生徒の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

後半の実習では、校内緑地を活用し、四つ目垣の作成（竹の交換作業）と、高所作業車を使用して高木の剪定作業を体験。実際に道具を手に取り、プロの指導を受けながら取り組むことで、造園技術への理解をより深める時間となりました。

本講座が、生徒の皆さんの進路選択や将来のキャリア形成において、造園建設業への関心や理解につながる機会となれば幸いです。



▲ 実習 竹垣を作る建築科2年生



▲ 集合写真



防草シートを使った緑化や頑固な雑草に
お悩みの方は1度ご相談下さい！

自然と人間（みんな）が一緒に幸せになる仕事

株式会社 白崎コーポレーション

〒916-0076
福井県鯖江市石生谷町 11-23
TEL.0778-42-8353 FAX.0778-42-8515



建設機械レンタル・販売・修理
足場施工

信陽機材リース販売株式会社
日本建設機械レンタル協会

〒409-3852
山梨県中巨摩郡昭和町飯喰 1224-1
TEL(055)275-7411 FAX(055)275-7413
URL <http://www.shinyo-L.com>



担い手事業 建設まつり

令和7年10月25日(土)、アイメッセ山梨にて開催された山梨県建設業協会主催「第8回建設まつり」に出展しました。

当協会ブースでは、花と緑に親しんでいただく機会として、子ども向けの親子苔玉作り体験教室を実施し、多くのご家族にご参加いただきました。また、日造協「全国造園フェスティバル」の取組として、花の種子や広報チラシを配布し、来場者の皆さまに造園の魅力を広く紹介することができました。



▲ 親子苔玉作り体験教室



▲ 座学「宇宙のちょっとおもしろい喩」

松里小学校出前講座

本事業は、「やまなし建設産業担い手確保・育成アクションプラン」に参画し、小中学校への出前講座を通じて、山梨県の子供たちに造園建設業の魅力を伝えることを目的として実施しています。

今年度は、令和7年10月28日(火)に甲州市立松里小学校にて開催し、6年生17名を対象に座学および剪定作業の見学・体験を行いました。

座学では、樹木医による「宇宙のチョットおもしろい喩(はなし)」と題した講話が行われ、地球誕生から植物・動物(人間)の誕生・進化に至るまでの約45億年の歩みを、グラウンド上に設けた45mの“時間軸”に置き換えて紹介しました。児童は実際の距離を歩きながら、各時代の出来事を体感的に学びました。

見学・体験では、協会員によるサクラの支障枝剪定を見学しながら、剪定の要点を説明。その後、児童自身が鋸を用いた枝の切断に挑戦し、さらに高所作業車に搭乗して

▲ 集合写真



高木剪定の高さを体験しました。初めての作業に触れる児童も多く、皆、生き生きとした表情で取り組んでいました。

今回の体験を通じて、造園建設業の仕事に関心を持ち、将来の職業選択の一つとして捉えてもらえるきっかけとなることを期待しています。

竹

竹材・木材・石材販売

笠井造園資材 有限会社

〒409-3866
山梨県中巨摩郡昭和町西条2461-5
TEL:055-275-2842 FAX:055-275-5554

一般のお客様にも建機レンタル及び販売を致しております!

http://www.kouyo.jp/

街のどこかに KKL

甲陽建機リース株式会社

AKT/O グループ

本社 ● 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町797 TEL055-237-7801

リース事業部 ● 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町797 TEL055-237-7821

韮崎ハウス工業 ● 〒407-0033 山梨県韮崎市竜岡町下条南割591 TEL0551-21-2302

営業所 ● 甲府・塩山・韮崎・身延・吉田・大月・竜王・甲西センター

◆ 建設業合同企業説明会

7月10日、ベルクラシック甲府で開催された山梨県建設業協会主催の「建設業合同企業説明会」に、5度目の参加となる当協会から2名が出席しました。当日は県内6校から181名の生徒が来場し、当協会ブースにも3校の生徒が立ち寄ってくれました。造園建設業が地域で果たす役割をはじめ、具体的な仕事内容や業界の魅力について紹介し、関心を深めていただく機会となりました。



▲ 協会ブースに相談にくる高校生

◆ 関東甲信造園建設業協議会

10月3日、パレスホテル大宮において「令和7年度関東甲信造園建設業協会協議会」が開催されました。埼玉県造園業協会の主催により、一都八県の造園建設業協会から52名が参加しました。

本年度の協議テーマは「造園業界における職域活動について」。午前中は各県ごとに取り組み状況の発表と意見交換が行われ、活発な協議の場となりました。午後には鉄道博物館および大宮盆栽美術館を視察し、造園文化や関連分野への理解を深めました。締めくくりの懇親会では、大野元裕埼玉県知事よりご祝辞を賜り、参加者同士の交流も一層深まりました。終日を通じて情報共有とネットワーク強化を図る有意義な機会となりました。



▲ 視察「大宮盆栽美術館」

◆ 国交省甲府河川国道事務所との意見交換会

3月18日、開催予定であった、国交省・甲府河川国道事務所との意見交換会は大雪予報に伴う対応で延期（結果的に中止）となったため、要望書を書面で提出し、それに対する回答を書面で受け取りました。山梨県支部からは、物価高騰や人材不足等の状況を踏まえ、事業量の安定的、持続的な確保、また剪定・除草等の適切な作業頻度の確保や熱中症対応について要望し、国からは概ねの理解を得ています。

◆ 全国造園フェスティバル

10月18日は小瀬スポーツ公園で林業まつり、10月25日にはアイメッセ山梨で建設まつりが開催され、これらの場を活用して「全国造園フェスティバル」を開催しました。

会場では、花の種やパンフレットを配布し、花と緑の大切さや、公園・緑地が地域に果たす役割について来場者に広く周知しました。多くの方にお立ち寄りいただき、緑化・造園への理解を深めていただく機会となりました。



◆ (一社) 日本造園建設業協会本部との交流会

10月10日、渋谷東急REIホテルで開催された「本部との交流会」に依田支部長以下3名が参加し、関東甲信総支部1都8県、本部の計36名にて協議しました。

総支部発表では植栽基盤診断士補研修会の実施状況等が報告され、支部からの発表では長野県支部から街路樹点検事業についての発表があるなど有意義な情報交換が行われ、意見交換会では総支部・各支部の現状と課題を話し合いました。

10月31日から11月1日にかけて、茨城県ひたちなか市・つくば市、千葉県牛久市・香取市・佐原市を訪ねる視察研修会を開催し、協会員19名事務局1名が参加しました。

1日目：国営ひたち海浜公園・筑波宇宙センターを視察

◆ 国営ひたち海浜公園

国営公園は国が整備・管理する都市公園で、全国に17カ所あります。そのうち13カ所を公園財団が管理しており、今回の視察では、公園財団ひたち公園管理センター 副センター長・深沢勇司様より園内案内と概要説明を、質疑応答では植物管理課長・渡辺様にもご対応をいただき、たいへん充実した視察となりました。

国営ひたち海浜公園は、1973年に米軍水戸対地射撃場の跡地が返還され、1991年に10番目の国営公園として開園。計画面積350haのうち現在は237ha(67%)が開園しており、2024年度の入園者数は203万人、過去最多は2019年の229万人。また、一日最多来場者は2017年5月4日の約10万人とのことでした。

訪問時は「みはらしの丘」のコキアが一面に色づく季節で、その美しい景観を楽しむことができました。「みはらしの丘」は周辺の公共工事で発生した建設残土を活用し、約25年をかけ大型トラック20万台分を積み上げて造成された人工の丘で、最も高い頂上は標高58mと、ひたちなか市内の最高地点となっているそうです。

そして、春のネモフィラ、秋のコキアによる花修景は「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」にも選出。Instagramを活用したSNS発信や海外商談会への参加などの取組みにより、国内外から多くの来園者が訪れる県を代表する観光スポットとなっています。当協会が訪れた4日後にはコキアの抜き取り作業が始まり、続いて翌春のネモフィラの準備に入るとのことでした。約4.2haに約530万本を咲かせるため、土壌改良を行い2週間で延べ80名ほどのスタッフが手作業で種をまき、冬季は防霜シートで全面を覆うなど、年間を通して多くの労力が費やされていることを実感しました。



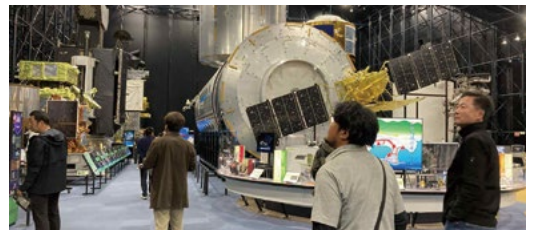
▲ ひたち海浜公園 みはらしの丘



▲ 集合写真

◆ 筑波宇宙センター

筑波宇宙センターは、筑波研究学園都市の一角に1972年に開設されたJAXAの主要拠点です。見学エリアでは、人工衛星による宇宙利用の説明を受け、歴代ロケットの展示などを見学しました。



▲ 筑波宇宙センター

2日目：牛久大仏・香取神宮・佐原の町並みを見学

◆ 香取神宮

香取神宮は、全国約400社ある香取神社の総本社として知られる、香取市の由緒ある神社です。本殿参拝のほか、源頼義公の祈願により三又に分かれたと伝わる「三本杉」、樹齢1000年を超えるといわれる目通り約8mの御神木、地震を起こす大鯰を抑えるために地中深くまで埋められているとされる「要石」を拝観しました。



▲ 香取神宮



◆ 佐原の町並み

香取市佐原地区は、小野川および香取街道沿いに江戸時代からの商家が立ち並び、利根川水運で栄えた面影を残す町並みが現在も残されています。市の伝統的建造物群保存地区・景観形成地区に指定されており、和風の町屋や洋風建築が調和した景観を視察しました。また、国指定史跡である伊能忠敬旧宅も見学しました。

今回の視察研修会は茨城を代表する観光地になるまでの取り組み、そして更に毎年多くの人を訪れるようにと企業努力する公園財団と造園会社の取り組みを勉強することが出来ました。また会員同士での交流も深まり有意義な視察研修会となりました。

LANDSCAPE
YAMANASHI

09

第42回全国都市緑化ぎふフェア視察記

5月28日から29日にかけて、岐阜県養老郡養老町、各務原市、可児市の緑化フェア会場を訪れる視察研修会を開催し、協会員7名事務局1名が参加しました。

岐阜県では平成28年度から令和2年度にかけて、花フェスタ記念公園（現在のぎふワールドローズガーデン）（可児市）、養老公園（養老町）、世界淡水魚園（各務原市）、平成記念公園（現在のぎふ清流里山公園）（美濃加茂市）を対象とした「岐阜県都市公園活性化基本戦略」を推進し、続いて令和3年度から令和7年度には、先の4公園に加え岐阜県百年公園、各務原公園を加えた「新・岐阜県都市公園活性化基本戦略」に取り組んできました。ぎふ緑化フェアはこの6公園が会場となりました。

1日目は養老町の養老公園を訪れました。同公園はイビデングリーンテック(株)が指定管理者として運営を行っており、所長の山田様、業務責任者の荒木様より園内をご案内いただきました。養老公園は明治13年開設、敷地面積78.5ha、養老の滝、こどもの国、養老天命反転地などがあり年間利用者は113万人（令和6年度）と岐阜有数の観光地です。特に養老天命反転地は年間10万人が訪れるとのことでした。SNSでの発信による効果も大きく、海外からの来訪も増えているとの説明を受けました。

園内の芝生広場では、緑化フェアの特設ガーデンとして風車を用いたアートガーデンが展示されていました。

2日目午前には各務原市の世界淡水魚園がある河川環境楽園を視察しました。河川環境楽園は東海北陸自動車道の川島パーキング、国営木曾三川公園、県営の世界淡水魚園（オアシスパーク）が隣接する環境共生型複合施設です。バーベキュー施設や観覧車、水族館などのレジャー施設に加え、そのすぐ隣には滝や沢を備えた自然



▲ 特設ガーデン リビングフラワーガーデン



▲ ローズテラスとバラ回廊

緑のリサイクル事業



株式会社

山梨環境サービス

公益社団法人 日本下水道管路管理業協会会員

〒405-0069 山梨県笛吹市一宮町東新居 1065-1
TEL/0553-47-3305 FAX/0553-47-3306
E-mail yamakan@yks-eco.co.jp
URL https://yks-eco.co.jp/



日立建機日本特約店(販売・サービス・製造)
国際貢献事業



株式
会社

日 建

山梨県南アルプス市上今諏訪564番地の1
TEL 055-282-3211 FAX 055-282-3269
http://www.nikkenmfg.com/

豊かな公園が隣接しています。多様な施設が充実しているのが印象的でした。

午後には、メイン会場である可見市・ぎふワールドローズガーデンを訪れ、イビデングリーンテック(株)中西部支店長の野村様に案内いただきました。同園は観光バスツアーでも知られ、来園日も来場者の多さに驚きました。平日でも5千人、土日には1万5千人が来園するとのことでした。敷地面積は80万平方米、バラは2万株・6千品種が植えられ、植栽管理は通常15人ほどで行うとのことでした。歩いていてもバラの香りが感じられ、広い園内は非常にきれいに管理されていました。入場料は時期により異なり、バラの最盛期である5月に実施される週末限定の早朝入園プログラムも人気とのことで、付加価値を高めている点も注目でした。

緑化フェア会場としては、県民協働花壇、庭園コンクール、自治体花壇、学校花壇、北の大花壇など多様な展示が配置されていました。そのうえ広域にわたる「ウエルカムガーデン」をはじめ、「ローズテラスとバラ街道」、「オールドローズガーデン」、全長約160メートルの展望デッキなど、園内各所に見どころが連続し、限られた視察時間では全域を回りきれない規模でした。

今回視察した公園では、指定管理者の皆様の取り組みが随所に見られ大変参考になりました。そして背景には自治体による長期的な施策や国の緑化フェアを含めた関連施策もあり、段階的な施設整備が積み重ねられてきたからこそ、県内外から多くの来訪者が足を運ぶ公園として定着し、市民にとっても親しみやすい緑の空間が育まれていると感じました。



▲ 養老公園 風車のアートガーデン



▲ みんなでつくる大花壇(北の大花壇)



▲ 養老天命反転地

LANDSCAPE YAMANASHI 10 表彰



(株) 仲村造園
代表取締役
仲村 清輝氏

(一社) 日本造園建設業協会 会長賞 (業績表彰)

当協会会員である仲村 清輝氏は、令和7年6月26日に日本造園建設業協会から、氏の長年の業績が高く評価され、功労賞を受賞しました。



(有) サンリツ造園土木
代表取締役
富岡 信也氏

山梨県環境緑化功労賞

当協会会員である富岡 信也氏は令和7年10月18日に小瀬スポーツ公園で開催された林業まつり記念式典において、環境緑化推進の功績が高く評価され、長崎幸太郎山梨県知事から表彰されました。



富士急建設(株)
代表取締役社長
飯島 慶一氏

建設雇用改善優良事業所
山梨県知事表彰

富士急建設(株)(代表取締役社長 飯島 慶一氏)は、令和7年11月21日にアピオ甲府で開催された令和7年度「建設雇用改善推進・建設業労働災害防止等に関する表彰式」において、優良事業所として長崎幸太郎山梨県知事から表彰されました。



緑化園芸機材・林業 / 農業機械・鳥獣害対策機器・刃物
森林アウトドア用品・薪ストーブ・薪ボイラー・除雪機
保冷庫・木材加工機材・保安用品(スパイク付ブーツ等)
高圧洗浄機・法定器具・キノコ菌類・食品乾燥機

地球への愛、人への優しさ。
当社は優れた品質で社会に貢献します。

山梨スチール株式会社

〒400-0047 山梨県甲府市徳行4丁目13-5 <http://www.yamanashi-stihl.co.jp>
TEL : 055-226-3656 info@yamanashi-stihl.co.jp



まちづくりの未来に 太陽がのぼる

お役立ち商品を幅広く取り揃えております!

太陽建機レンタル株式会社 韮崎支店

〒407-0003 山梨県韮崎市藤井町北下條1439-1
TEL : 0551(22)3921 FAX : 0551(20)1011
<http://www.taiyokenki.co.jp/>

山梨県造園建設業協同組合では、現在 31 社が加入し、造園に関する様々な業務を行なっております。現在は、山梨県から指定管理者として「武田の杜保健休養林」の管理運営、緑の普及啓発事業として「緑の相談所」を受託し事業を展開しております。

武田の杜保健休養林事業

平成 26 年度より、武田の杜保健休養林の管理運営を行っており「親子でキャンプ」や「キノコ植菌体験」など四季を通じて自然に親しむ様々な事業を展開し、多くの皆様にご利用いただいております。

令和4年からは、武田の杜サービスセンター内に甲武信ユネスコエコパークインフォメーションセンターが設置され、本年 11 月には屋久島から只見まで国内 10 か所のユネスコエコパークの運営に関わる実務者が集まり情報交換等を行うワーキンググループが開催されました。会議では武田の杜の取り組みが評価されるとともに、自然に親しみ共生していく事業展開の重要性を共有いたしました。

また、令和6年5月に健康の森内にオープンしたマウンテンバイクエリアでは、11月に初心者や家族でも楽しめる「マウンテンバイク教室」を開催するなど、森林空間を活用した新たな森林レクリエーションとして、マウンテンバイクの利用を促進しています。

今後とも実施事業の充実や適正な管理運営を行い、多くの皆様に愛され安心してご利用いただける施設にまいります。

武田の杜森林セラピーとトレラン体験会について

武田の杜では、平成 25 年に森林セラピー基地に認定された良好な自然環境のもと、武田の杜森林セラピーガイドの指導による質の高い保養プログラムを提供、年間で約 200 人の方が体験しています。

本年度は、通常の森林セラピーを 16 回開催するとともに、県農林大学校、荒川区など5団体から依頼され、計 12 回開催し、延べ 202 人に体験していただくなど、好評のもと実施することができました。

また、9月には、本年度初開催となるトレイルランナー山本健一さんを講師に迎えた「トレラン体験会」を開催しました。参加者には健康の森や千代田湖周辺の遊歩道で、登りや下り時の体重移動や足の運び方などプロの技術を学びながら、トレイルランニングを楽しみました。



野生鳥獣写真コンクール（鳥獣センター）

野生鳥獣の保護思想と普及啓発を図るために開催され、平成9年度から始まり、令和7年度で 29 回目を迎えました。

令和6年度は、県内はもとより全国各地から 90 名、231 点と多くの応募があり、その中から、最優秀知事賞を始め各賞が選出されました。

また、応募作品を展示する「野生鳥獣写真コンクール展示会」を、令和7年5月から約2か月間開催し、多くの来場者がありました。

令和7年度もコンクールを実施しています。



▲ 写真 最優秀知事賞「飛翔」
石田 康行 様

緑の相談所

旧山梨県緑化センターで行われてきた緑化相談や緑に関する研修会等ソフト事業につきまして、当組合が県から「緑の普及啓発事業」として業務委託を受け、平成 26 年度から「緑の相談所」という新たな組織を立ち上げ、県内各地で研修会の開催など県民を対象に緑の普及啓発事業を行っています。

会 社 名	代 表 者 名	住 所	電 話 番 号 / FAX	E - m a i l / U R L
(株)アセラ技建	石原 啓邦	甲府市蓬沢町1171	055-233-4617 055-233-4633	giken@acera-jp.com
(株)石和植木	齊藤 正隆	笛吹市石和町川中島378	055-263-2070 055-262-4889	isawa@mbd.nifty.com
(株)石原グリーン建設	石原 政人	甲府市高室町269	055-241-2001 055-241-0822	office@green21.co.jp https://www.green21.co.jp
(株)雲松園	大塚 広夫	北杜市小淵沢町3630	0551-36-2432 0551-36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
(有)萩野造園	萩野 陽司	甲府市伊勢四丁目1-12	055-235-4045 055-231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp https://www.oginozouen.com
(株)帯金造園	帯金 岩夫	甲府市池田二丁目11-12	055-251-4128 055-251-4194	office@obikane.co.jp https://www.obikane.co.jp
(株)河口湖庭園	梶原 陽一	南都留郡富士河口湖町船津4940-1	0555-72-0635 0555-72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
(有)窪田造園	窪田 司	甲斐市中下条1673	055-277-2111 055-277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
甲南緑化(株)	岩田 めぐみ	甲府市高室町721	055-241-6136 055-241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
河野造園土木(株)	河野 嘉孝	甲府市下飯田二丁目5-27	055-222-4396 055-222-0555	info@kzd.co.jp https://kzd.co.jp
(株)三枝造園	三枝 正雄	富士吉田市松山1267-6	0555-22-1174 0555-22-2219	yamaus-zouen@tbz.t-com.ne.jp
(有)坂本造園	坂本 篤彦	韮崎市若宮二丁目9-39	0551-22-0301 0551-22-0322	sakamotozouen@bg.wakwak.com https://sakamoto-zouen.com
三協造園(株)	八木 幸彦	西八代郡市川三郷町上野261	055-272-6000 055-272-7777	sankyouzouen@beetle.ocn.ne.jp
(有)サンリツ造園土木	富岡 信也	甲府市善光寺町3135	055-268-3110 055-268-3118	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
(有)敷島緑化土木	石水 秀樹	甲斐市島上条1664	055-277-2530 055-277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp https://www.shikishimaryokka.jp/
(株)芝保	藤原 辰男	甲府市貢川本町18-20	055-237-7000 055-224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp https://shibaho.jp
(有)清水造園	清水 文一	甲府市里吉一丁目7-21	055-233-9748 055-233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
(有)須田造園	須田 良英	笛吹市八代町米倉729	055-265-2452 055-265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木(株)	今村 尚人	甲府市徳行一丁目9-27	055-226-4525 055-226-4573	info@chuouzouen.co.jp http://chuouzouen.co.jp
辻緑化土木(株)	辻 宏幸	甲府市朝氣三丁目3-16	055-233-9545 055-233-9542	info@tsuji28.net http://www.tsuji28.net
(株)津々美造園	堤 明伸	甲府市愛宕町146	055-253-2188 055-253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
(株)仲村造園	仲村 清輝	北杜市明野町小笠原3838	0551-25-2348 0551-25-2439	naka-lal@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設(有)	野尻 広光	韮崎市穂坂町宮久保5122-2	0551-22-0615 0551-22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
富士観光開発(株)	志村 和也	南都留郡鳴沢村字富士山8545-137	0555-86-3311 0555-86-2440	kensetsu@fujikanko.co.jp https://www.fujikanko.co.jp/
富士急建設(株)	飯島 慶一	富士吉田市新西原五丁目2-1	0555-22-7151 0555-22-7153	fken@fujikyukensetsu.co.jp http://www.fujikyukensetsu.co.jp
(株)富士グリーンテック	田中 秀明	甲府市富竹三丁目1-3	055-236-1600 055-224-5520	honsya-soumu@fujigreentech.jp http://www.fujigreentech.jp/
(有)美園造園土木	武藤 洋	甲斐市玉川1447-4	055-276-9241 055-279-8671	misono610@s2.dion.ne.jp http://www.yamanashi-machitsukurijp/mizonozouen/
(株)明桃園	角野 勝	南アルプス市桃園974-4	055-282-4128 055-282-4190	meitoen@khaki.plala.or.jp
山梨ガーデン(株)	依田 忠	南巨摩郡富士川町最勝寺1514	0556-22-4181 0556-22-2359	y.garden@cronos.ocn.ne.jp http://yamanashigarden.co.jp
(有)山宮造園	山宮 一哲	甲府市大里町3608	055-241-2256 055-241-2078	yamamiya@kvj.biglobe.ne.jp
(有)吉井造園	吉井 大樹	甲斐市西八幡4044-6	055-276-0470 055-230-6322	yoshii-zouen@ag.wakwak.com

《発行》(一社)山梨県造園建設業協会 〒400-0115 山梨県甲斐市篠原2456-4 TEL.055-279-7328 FAX.055-234-5160 《発行日》令和8年1月1日

(一社)山梨県造園建設業協会

E-mail: info@zo-en.or.jp
U R L: https://zo-en.or.jp



山梨県造園建設業協同組合

E-mail: info@y-zouen.jp
U R L: https://y-zouen.jp



Facebookで「いいね！」してね

山梨県造園協会 検索

